

# 川と人

Vol.26  
2005

## 特集！北海道遺産天塩川 朔北の大河、のびやかな流域づくり

PHOTO:砂川オアシスパーク ヨットレース



写真:北海道新聞2001.8.5

### 小さいけれど北海道固有の希少種です 【エゾホトケドジョウ】コイ目 ドジョウ科

ドジョウといってもずんぐりとして小さなエゾホトケドジョウは、北海道にしかいない日本の固有種です。体の中央を直走し帯びれに至る黒色の縦条が特長で、ホトケドジョウとの見極めのポイントになっています。愛らしい姿に似合わずりっぱな口ひげが4対。流れの緩やかな浅い泥底の川や小池などに棲み、底にいる小動物を餌にオスは4~9cm、メスになるとその倍近くの13cmほどにも達し、産卵は6月といわれています。平成15年の河川水辺の国勢調査では道内全域で生息が確認されていますが、近年その数は激減し、環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類に指定され、保存が義務づけられている魚でもあります。

札幌市北部の篠路福移湿地では住民による保全活動が行われているほか、希少な生物が棲みやすい生息環境の向上を目指した取り組みは、官民連携で全道的に広がっています。

監修 北海道開発局  
発行 (財)石狩川振興財団 〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目5番地 Tel (011)242-2242  
平成17年3月

ホームページアドレス <http://www2.ocn.ne.jp/~ishi-riv/>



川と人 Vol.26 2005

小学生の水生物調査(名寄市)。

CONTENTS

特集！北海道遺産 天塩川  
朔北の大河、のびやかな流域づくり

- 天塩川と人との歴史 ..... 3
- 天塩川と天塩川流域 ..... 4
- 天塩川の流域連携 ..... 5  
天塩川源流探査登山会／子どもサマーキャンプ／天塩川とカヌー  
天塩川新聞／朔北の大河「天塩川」展
- キーパーソンに聞く ..... 6  
NPO法人天塩川リバーネット21 理事長 入江 和也さん
- 緊急提言 ..... 7.8  
災害情報をどう生かすか～平成16年の災害を取材して～  
NHK解説委員 山崎 登氏
- 石狩川の歴史 ..... 9  
水害被災者団、第二の郷を北にもとめて (新十津川町)
- 流域の現在 ..... 10  
【砂川市】砂川遊水地・砂川オアシスパーク
- 世界河紀行 ..... 11.12  
ザンビア通信 アフリカ 洗礼  
在ザンビア日本国大使館 財津 知亨氏
- 北海道開発局  
近年の風水害について ..... 13.14
- 北海道開発局 石狩川開発建設部  
調査船「弁天丸」による体験学習 ..... 15.16
- 北海道開発局 旭川開発建設部  
「ながやま子どもの水辺協議会」の登録 ..... 17
- 北海道  
ホタル舞い、サケ帰る川の再生 ..... 18
- 札幌市  
札幌市河川環境モニター制度 ..... 19
- 旭川市  
中央地区流雪溝／基北川消流雪河川 ..... 20
- 2005 川と人カレンダー ..... 21
- 石狩川振興財団 活動報告 ..... 22  
平成16年 石狩川流域300万本植樹報告  
平成16年 森と湖に親しむつどいin滝里  
編集後記

特集

北海道遺産

天塩川

朔北の大河、のびやかな  
流域づくり

神がつくりし梁のような岩盤が中流を横切り、  
河口では約9kmも砂丘を隔てて日本海と併走する――  
北海道のダイナミズムを象徴するような天塩川は石狩川と並ぶ大河です。  
連なる13の市町村は、川を尊び、個性を生かしながらつきあいを深めています。  
北海道遺産に選ばれた天塩川と流域づくり。  
川を遡る心やつながり合うことの大切さを教えてください。

『天塩川と流域』

北見山地・天塩岳(標高1,558m)に源を発し、北流しながら狭窄部を抜け、下流で流れを西に変え、河口付近で南下して日本海に注ぐ流路延長256km、全国第4位の一級河川。  
その名の由来はアイヌ語でテッシン・オ・ベツ＝梁・多い・川。岩が梁のような形で川に横たわる中流の地形を表し、「鬼神がつくりし…」(松浦武四郎)、「魔神が魚をとるために岩を打ち込んだ…」(アイヌ伝説集・更科源蔵アイヌ関係著作集)など、神話が残る川でもあります。  
流域面積は5,590km<sup>2</sup>で、上川、留萌、宗谷の各支庁に2市10町1村、約94,000人が暮らし、北海道らしい純山・農・漁村が連なっています。  
平成16年10月、広域リバーフロント文化圏として官民一体の幅広い取り組みが評価され、北海道遺産に選ばれました。

# 今も残る 武四郎の息吹

天塩川は北海道を内陸まで克明に調査した松浦武四郎と結びつきの深い川で、流域のあちこちにその足跡が残されています。

安政4年6月、丸木舟で天塩川を遡った武四郎は、24日間におよぶ調査をします。途中、アエトモ長老の話聞き、のちに「北海道」の名を思いつく武四郎。音威子府村の箴島には「北海道命名の地」の碑が建てられ、村は命名の地を宣言しました。

天塩川の名の由来となったテッシーを見たのは現在の美深町旧川最上流部（現美深町森林公園）です。また武四郎はチヨウザメの群と遭遇、気味が悪いと記し、美深町では昭和のはじめまで遡上したというチヨウザメの増殖研究に取り組んでいます。

①美深町チヨウザメ館  
美深町字紋穂内  
TEL.01656-212595



北海道命名の地  
(音威子府村)



天塩川と人々の歴史

岩が川を横切る様に、人々は神を見た(美深町橋の瀬テッシー)。

# 天塩川を軸に 未開の地へ

天塩川流域の開拓は天塩川を軸に進められました。  
明治初頭、天塩地方は水戸藩が2年にわたって収め、サケ漁のため河口付近の大量の沈木を取り除きました。本格的な開拓は明治32年からで、内陸へ資材や食糧などを運ぶため川舟を使い、明治43年頃には船着場や渡船場は20を数えました。天塩川航路は日本一長いのではといわれ、「天塩川歴史資料館」には、航路を往復した長門船の1/2の模型が展示されています。アイヌ語でスーポロ激端の所と呼ばれる名寄市智東地区は、天塩川最大の難所で、明治44年、宗谷線の工事資材を積んだ川舟が激流にのまれ、死者30名を出す大惨事が発生。川辺に建つ慰霊碑が悲劇を物語ります。

②天塩川歴史資料館  
天塩町新栄通6丁目  
TEL.01632-1212071

# 住民悲願の 天塩川治水

曲がりくねって流れる天塩川は氾濫を繰り返し、昭和7年には大洪水が連続したため、糧を失った農民を中心に治水懇願の大運動にまで広がりました。この洪水を機に、昭和9年の智恵文、名寄付近の屈曲部の切替からはじまった捷水路事業は、昭和54年まで25箇所が通水、川の水位を大幅に下げ、洪水調節を有する岩尾内ダムは昭和46年に完成をみました。

名寄太天塩川上流渡船場(明治44年)  
北海道大学附属図書館蔵



# 天塩川

## 北へ向かう大河に連なりし、 天塩の国と人々

### 天塩川が育む、 まちの輝き

約70%が森林の天塩川流域は、オジロワシをはじめ約200種の鳥や約37種の魚が棲み、下流には最北端の湿原・サロベツ原野が広がります。

上流は林業を中心に、中流は美深町までが稲作の北限地帯で、大規模な稲作と畑作が行われています。中下流からは日本有数の広大な酪農地帯が広がり、河川敷も半分が放牧に利用されています。河口付近は、漁獲量全道一のシジミやサケなど漁業が営まれています。

### 天塩川流域MAP



天塩川の旧川・智恵文沼は紅いヒブナの里(名寄市)。



東京の子供達とイカダ遊び(風連町)。



中下流では河川敷の半分を採草放牧に利用(音威子府村茨内付近)。



天塩川河口大橋下流でのサケ定置網漁(天塩町)。

### 市町村のおもな取り組み

**【名寄市】**  
紅いヒブナをシンボルに 智恵文沼水辺の楽校  
智恵文沼は天塩川の切替で残された延長3kmの旧川で、平成10年から水辺の楽校として整備。ヒブナをはじめ魚や野鳥が生息し、カヌーもできる広大な学び・遊び場です。ギンナナの突然変異であるヒブナは、昭和40年頃から一般に知られ、住民による智恵文沼保存会も結成されました。現在、地域の小中学校はヒブナを飼育し、関係機関によるヒブナの生息環境の向上と愛護活動が進められています。

③智恵文沼ヒブナ生息地 名寄市字智恵文

### 都市との交流事業

流域の地域振興のひとつに都市との交流があります。風連町「都会っ子交流事業」は、交流協定を結ぶ東京都杉並区の子供達にイカダ遊びや農業を体験してもらいます。中川町「森の学校」は地域の自然を教材に地球環境を学び、和寒町では手作りカヌー体験など、各市町村毎に取り組んでいます。

### 【士別市】

防災と交流の場 士別河川防災ステーション  
水防活動の拠点で平時は憩いの場となる士別河川防災ステーションが、天塩川九十九橋上流に整備されています。館外に天然芝のサッカー場、館内は天塩川を学ぶコーナーなど、流域の新たな交流の場として、その完成が待たれます。

④士別河川防災ステーション 士別市天塩川九十九橋左岸

### 流域をつなぐ川の駅&カヌーポート

天塩川はカヌーの最適地で、2箇所の川の駅と8箇所のカヌーポート、上陸可能箇所をあわせてカヌー発着場が温泉やキャンプ場を結ぶように、ほぼすべての市町村に20以上もあります。

### 問い合わせ

- 朝日町 TEL.016528-2121 ○和寒町 TEL.016532-2421 ○剣淵町 TEL.016534-2121 ○士別市 TEL.01652-3-3121 ○風連町 TEL.01655-3-2511
- 下川町 TEL.01655-4-2511 ○名寄市 TEL.01654-3-2111 ○美深町 TEL.01656-2-1611 ○音威子府村 TEL.01656-5-3311 ○中川町 TEL.01656-7-2811
- 幌延町 TEL.01632-5-1111 ○豊富町 TEL.0162-82-1001 ○天塩町 TEL.01632-2-1001



音威子府村でのヤマメ放流。



カヌーも出動するクリーンアップ大作戦。

# 【NPO法人天塩川リバーネット21】 ひとつひとつを みんなで長く続ける

天塩川流域には9市町村の住民が参加する団体があります。発足から早1年、奇をてらわず地道にこの川の歴史と川を大切にすることを広げます。

## ひとつかければ一斉に行動

「ここはもともと国などの協力の下、まとまりが良かったんです。市町村をまたがるカヌー大会も開かれ、連携の土台はできていた。そんな気運を察して、天塩川を管轄する旭川開発建設部名寄河川事務所が呼びかけ、とんとん拍子に事が運びました。」

ふだんの活動や会員は市町村毎ばらばらですが、クリーンアップ大作戦の日は13市町村一斉にゴミ拾いし、昨年の7月7日川の日には、参加市町村の街頭で河川愛護を呼びかけました。同じ日に同じ事ができる、それが天塩川流域の強味ですし、今後は流域全市町村の参加を目指します」

## 川と人との歩みを伝える

「昨年10月に天塩川が北海道遺産に選ばれましたが、特別な事はしません。いつも通り、ひとつひとつをみんなで長く続けることだけです。川とつきあ

## NPO法人天塩川リバーネット21

H16.5発足。朝日町、和寒町、士別市、風連町、下川町、名寄市、美深町、音威子府村、中川町の住民主体団体。  
住民と天塩川との接触の機会をつくり、流域財産として次代に残すことを目的に、流域事業・市町村事業を行う。本部は名寄市、各市町村に支部を置き、会員は約450人、団体約65。(平成17年3月1日現在)  
おもな活動：天塩川クリーンアップ大作戦、「みんなで守ろう、天塩川」街頭PR、放流事業、水防訓練他  
事務局：名寄市西3条南5丁目 TEL.01654-9-6711 (NPOなよろ観光まちづくり協会内)

理事長 入江 和也さん



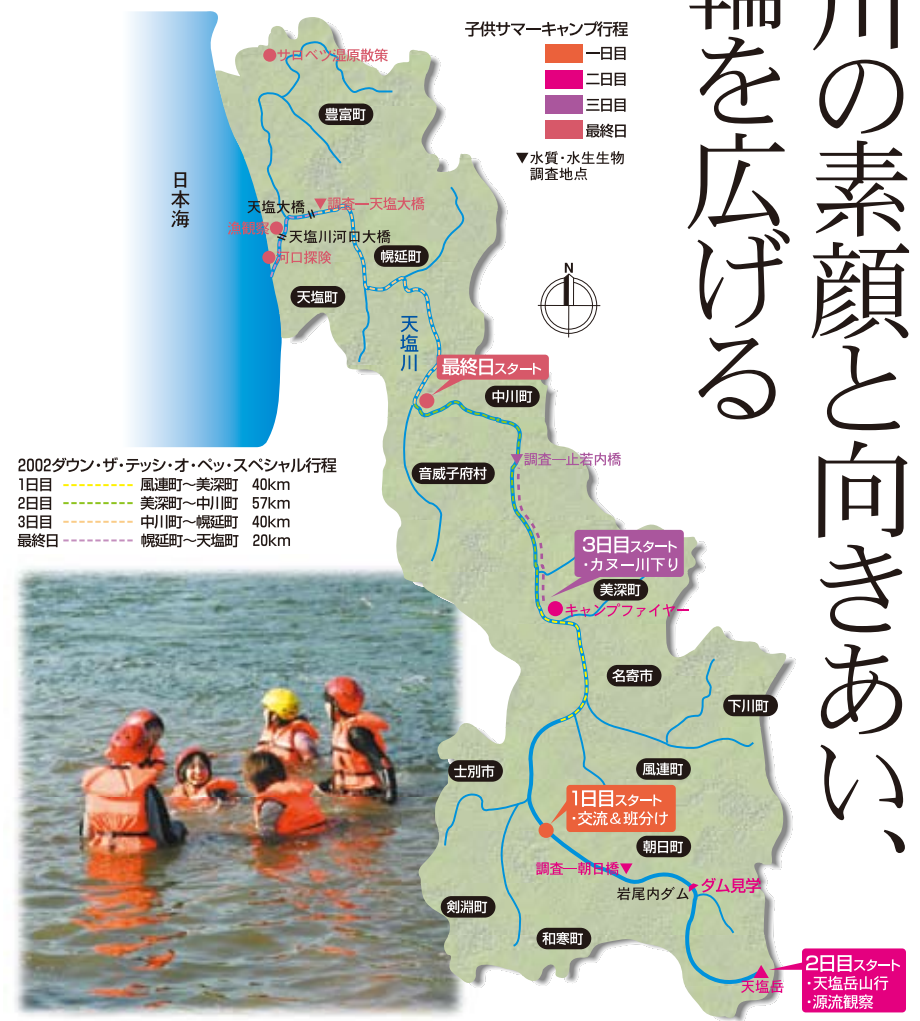
総会であいさつする入江会長。

うというのほそついうことだと思えます。この地域は昔から川との関わりを大切にしてきました。その歴史を住民に伝え、川の位置づけをきちんとする。松浦武四郎の足跡を残すことも事業の柱です。宿営地に看板を建てたり、毎年流域として取り組む予定です。アイヌ文化にも興味がありますね。

天塩川はテッシンやチャシなど昔の文化を知ることができいい川なんです。」



流域を確認。「源流の碑」の建立を予定。



# 天塩川

## 天塩川の素顔と向きあい、その輪を広げる

◎天塩川源流探査登山会  
〔平成15年7月8日〕  
流域8市町村の職員等約50人が源流を探す試みは、旭川・留萌開発建設部の呼びかけで行われました。登山開始から3時間、夏でも雪渓の天塩岳1288m地点に、小さな清流を確認。水の大切さや清流を下流まで保つことの意義を流域として共有した瞬間でした。

◎子どもサマーキャンプ  
〔平成15年7月18～21日〕  
流域の小学校高学年31人が、自然・郷土・自分発見をテーマに、源流から河口までをめぐりました。源流では魚や植物を観察、中流を10人乗りジャンボカヌーで下り、河口の漁業を観察。その成果は天塩川宝マップや、山博士として参加したみなみらんぼう氏とのコラボレート曲「天塩川」に残しました。

※天塩川源流探査登山会と子どもサマーキャンプは、「森と湖に親しむついで2003岩尾内セッション」関連事業として実施



具材満載地元産天塩鍋に舌つづみ。

◎天塩川とカヌー  
上流から河口まで157kmも堰など川を横切る工作物がない天塩川は、日本最長のカヌーコースです。流域には16ものカヌー団体や手作りカヌー工房があり、地域振興の一翼を担っています。平成14年には、100マイルを3泊4日かけて下る「ダウン・ザ・テッシン・オ・ベツ・スベシャル」が開かれました。これは毎年区間を決め、4年で100マイル達成するという大会の特別版で、全国から233艇404人が参加、カヌー王国の名を不動のものにしました。

H17 ダウン・ザ・テッシン・オ・ベツ  
8月6日(土)、7日(日)開催  
●音威子府村～幌延町までの46km  
●事務局 TEL.01656-2-1611(草野)



北海道遺産選定を受けて、朔北の大河「天塩川」展が11月13日、14日のJR札幌駅を皮切りに、流域内で3月末まで行われました。札幌会場では、たくさんのパネルとともにカヌーの展示や制作を体験、喧騒の中そこだけ雄大な空間に、幅広い層の人々が魅入っていました。



http://motto.hokkaido-np.co.jp/  
天塩川流域連携クラブ TEL.016532-3120(酒向宅)

●天塩川新聞  
平成14年から現在まで第10号の発行を数える天塩川新聞は、流域市町村の各家庭に届きます。定期的に載せられる天塩川の水質やシジミ漁情報、支庁の壁を越えた情報の交流と河川愛護の意識につながり、「お金を出してもほしい」など反響を呼んでいます。

## 内外に向けた独自の発進力



カヌーツーリング大会(幌延町地点)。



### 早めに複数の伝達手段で

まず、災害情報はタイミングを逃さないように早めに出すことが重要で、しかも複数の伝達手段を確保する必要があります。あることを教えたのが、7月に新潟や福井で起きた豪雨災害だった。

この災害では21人の犠牲者のうち16人が65歳以上の高齢者で、今後の災害対策の重要な課題が高齢者対策であることを明らかにした。

被害が大きかった新潟県の中之島町が、住民に対して避難勧告を出したのは、刈谷田川の堤防が決壊する20分ほど前だった。このため、住民は逃げる余裕がほとんどなかった。また、三条

### 送り手と受け手の共通認識

行政と住民という、災害情報の送り手と受け手が普段から共通認識をもっておかないと、いざという時に情報の危機感は伝わらないことを教えた災害もあった。

例年なら、秋の気配が濃くなる10月下旬に上陸した台風23号は、強い勢力と広い暴風域をもつていて、各地に大きな被害をもたらした。

なかでも兵庫県豊岡市は円山川の堤防が決壊して市街地が水に浸かり、1人が亡くなったほか、おおよそ900人がボートやヘリコプターで救出される事態となった。豊岡市は、堤防が決壊する4時間前から避難勧告よりも強い意味のある避難指示を出していたが、実際に避難したのは、対象となった住民の10%足らずだった。

住民からは、「避難勧告や避難指示の意味や違いがよく分からなかった」といった声が聞かれた。この災害は、普段から行政と住民がどんな時にどういう情報が出される、その情報にはどの程度の切迫感があるのかという共通認識をつくり、その際にはどう行動したらいいかまでわかっていると災害情報は力にならないことを示したといえる。

NHK解説委員  
**山崎 登**

### 緊急提言!

平成16年は、最近になく災害の多い年だった。史上最多の10個の台風が上陸したほか、各地で集中豪雨が降って洪水や土砂災害が起きた。去年一年間の風水害による犠牲者の数は231人に達し、ここ20年ほどで最悪となった。また、新潟県中越地震は、阪神淡路大震災以降の10年間で最も大きな地震災害となった。さらに、年末に起きたインドネシアのスマトラ島沖の巨大地震による大津波の被害は世界を驚かせた。私は、そのいくつかの現場取材して、改めて、被害を減らすために災害情報をどう生かせばいいのかを考えさせられた。

# 災害情報を どう生かすか



平成16年の災害を取材して



この災害からみてきたことは、災害情報を住民の行動に結びつけるためには、避難に必要な時間的余裕をもつて、もれなく伝える必要があるということだ。高齢者などの避難は一般の人よりも時間がかかることが多く、避難の情報は受け手の事情を考慮して、十分なリードタイムをとる必要がある。また、様々な生活環境と生活時間のなかで暮らしている人達に、一つの伝達手段で情報をもれなく伝えるのは困難で、大事な情報であればあるほど複数の伝達手段を確保して伝えるようにしないといけないということだ。



### 災害情報を生かす 日頃の取り組み

最後に、正しい知識をもっていることが、防災にとっていかに大切かを痛感させられたのがスマトラ島沖の巨大地震津波だった。

スリランカやタイなどの被災地からは、地震と津波の関係知らない人が多かったことなどが伝えられ、多くの人が津波の怖さを知らないまま津波にまわれた。こうしたことから1月に神戸で開かれた「国連防災世界会議」では、日本の戦時中の小学校の教科書に

載っていた「稲むらの火」という教材に各国の注目が集まった。

これは、現在の和歌山県広川町に実在した人物をモデルにした話で、江戸時代の末期に、この人物が大津波がくることを大切な稲むらを燃やして村人に知らせ、避難を促したというもので、津波の怖さと素早い避難の重要性、それに先人からの伝承の大切さを教えている。

「つなみ」という言葉が世界の共通語になるほど、過去繰り返し大きな津波災害に見舞われている日本では、津波の怖さを知っている人が多く、それが防災対策に結びついていると世界の防災関係者が注目したのだ。

### 山崎 登氏 profile

自然災害・防災担当  
キャスター、報道局社会部災害班デスクを経て現職へ。阪神淡路大震災や有珠山噴火、十勝沖地震、韓国地下鉄火災など、日本をはじめ世界各地の災害現場を数多く取材。



- 新潟県中越地震 H16.10  
7P上 大きくひび割れた道路  
8P中 脱線した上越新幹線  
※新潟県長岡市提供
- 新潟・福島豪雨 H16.7  
8P上 消防によるボートでの救助  
※新潟県見附市提供
- 台風18号 H16.9  
8P下 烈風により根こそぎ倒れたポプラ並木  
※北海道大学提供

\*被災地の1日も早い復興と、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。



ヨーロッパのような外観の管理棟は気軽に利用可。

◎ **広域的な交流の舞台**  
砂川市は環境省から道内初のアメニティタウンに指定され、水と緑あふれる公園都市づくりを進め、市民一人当たりの都市公園面積が177・8㎡と日本一を誇ります。オアシスパーク

# 砂川市

<http://www.city.sunagawa.hokkaido.jp/>

砂川遊水地・砂川オアシスパーク



全国から踊り子100チーム・5000人程が集まる「よさこいにっぽんThe祭」。

# オアシスパークの育み

カヌーやヨットが走り、水鳥達はつかの間の休息を得る—  
ここは海でもなく、湖でもない、  
市街に近接する巨大な遊水地。  
オープンから10年、  
今日も潤いを湛えるオアシスパークは  
まちを少しずつ変えているようです。



砂川オアシスパークで開催された代表的なイベント入込客数

● イベント ●	● 開催月 ●	● H15年度(人) ●	● H16年度(人) ●
ラブリーバー砂川夏まつり	7月	12,000	15,000
砂川オアシスパークヨットレース	10月	100	120
砂川冬のフェスティバル	2月	11,000	15,000

砂川市経済部 商工労働観光課商工観光係調べ TEL.0125-54-2121

砂川オアシスパーク管理棟  
ウォーターヒルズスクエア  
砂川市西5条南8丁目 TEL.0125-54-2190  
9:00~17:00 ※年末年始を除く通年

その美しさと潤いで、まちに華やぎ心に安らぎを育んでいくことでしよう。

◎ **四季を通じて人が集う**  
砂川遊水地は石狩川から切り放された旧川を利用して、洪水が発生すると石狩川の水の一部を貯め込むいわば巨大な水瓶で、ふだんから水を湛えた1・8km<sup>2</sup>もの治水と親水の空間です。  
春先には白鳥が飛来し、夏から秋は水上スポーツ、冬にはワカサギ釣りのカラフルなテントが彩り、1年を通してレクリエーションを楽しむ人の姿がたえません。

は水辺憩い空間の拠点として、まちを代表する夏・冬のイベント会場で、昨年度は2つのイベントを合わせて3万もの人々が集いました(砂川市人口約2万人強)。  
また、石狩川下覧権(7月)の中継地やヨットレース(10月)、よさこい祭り(7月)など新しいイベントが次々に生まれる、集客の原動力になっているばかりか、広域的な交流の場として役割は広がっています。

◎ **育まれた美化意識**  
夏は管理棟下の花壇にアジサイの大輪が咲き誇ります。市民団体あじさいの会が6年程前から植え続けたアジサイは、今では名所として全国的に知られるように。植栽は毎年10月初旬に行われます。  
イベントが多い時期には、住民が散乱したゴミを拾いはじめようになりました。  
住民による美化活動も、オアシスパークの効果のひとつです。

◎ **住民の好きな砂川として**  
砂川市では毎年、市民から砂川を紹介する写真を公募してい



「あじさいの会」が地道に続けた活動は大きな花を咲かせた。



空知の流域交流、石狩川下覧権オアシスパークのタペ。

# 石狩川の歴史

史上最大で迅速なる移住  
奈良県吉野郡十津川村は、紀伊半島の中央に位置する山村で、古来より勤王の志高く、幕末の活躍では郷民すべてが士族に列せられた。この由緒ある郷を突如、自然の猛威が襲う。明治22年8月、豪雨により山や谷壁はなだれ落ち、溪谷をせき止め、たまった水は堰を切って民家や田畑、道路を流失埋没せしめた。死者168名、全壊・流失家屋426戸、被災者はおよそ3,000人に達した。  
在京の郷出身者達は、北海道庁長官永山武四郎に移住を懇請するなど被災者救済に動き、600戸・2,500人という開拓史上類を見ない大移住が手厚い官民支援の下、被災後2カ月の早さで始まった。



先人の努力が実り、北海道を代表する良質米の産地に。(昭和53年、橋本地区)

# 水害被災者団、 第二の郷を北にもとめて

市来知(三笠市)から空知太(滝川市)まで約52km、苦難の行進が続いた。温暖育ちの一行には、雪道の寒さと歩きにくさは耐えようがなかった。わずか3カ月前、この状況をだれが予測しただろうか—



吉沢農場開墾風景。(明治33年頃)新十津川町教育委員会「トック写真集」提供

## 新十津川へ：

移住団は三隊に分かれ神戸港を出発。約1,200km離れた北海道の小樽港に到着すると汽車で三笠へ。三笠からは雪解けまで留まることとなる滝川屯田兵屋まで歩いた。途中奈井江の四人小屋に一泊したが、大変つらい道程だった。  
北海道庁は肥沃で谷地、泥炭地の少ないトックを入植地に決めたが、徳富川は曲折蛇行がひどく、入植地の抽選に支障をきたした。  
翌年6月、移住団は満々とふくれ上がった石狩川を渡る。新十津川へ。開墾は苦渋を極めたが徐々に販売物も増えた。同時に、米作りへの思いも強くなっていった。そんな矢先だった。



村内の開墾風景。(明治39年頃)新十津川町教育委員会「トック写真集」提供

何度でも立ち上がる決意  
明治30年、主力だった亜麻が夜盗虫の来襲で全滅。翌年、全道に甚大な被害をもたらした明治31年大水害は、開墾著しい新十津川に大きな打撃を与えた。  
しかし、災いは転じる。畑作が全滅した中、試作中の水稲だけが登熟したのである。水田熱は勃興し、明治38年、中徳富水田組合がついに300町歩の開田に成功。大正に入ると、冷害に強く食味のよい品種「玉置坊主」が開発され、見事第一級の米作地帯となった。  
昭和13年の「蝟の首」からはじまった石狩川新水路工事と築堤の整備により、安全度は格段に高まったが、住民は明治期から自分達で堤防を築いていた。  
被災時に受けた聖恩に報い、第二の十津川郷建設のため移民誓約書に連名した日。悲壮なまでの決意が、幾多の困難を乗り越え、明日を拓く力になった。



この人、  
王様の船の船頭です。

## コンボカ祭り

ザンビアには大河ザンベジ川が流れており、ザンビアの西部、ザンベジ川の上流にあるモング市には年に1回「コンボカ祭り」というザンベジ川に密着した祭りがあります。

コンボカ祭りは雨期の増水により湿原に囲まれてしまうサマーパレスから、丘の上にあるウインタールパレスにロジ族の王様が船で移動するという儀式が祭りになったもので、毎年4月頃に行われます。

## モングへ

さて、このお祭りを観光するツアー（セスナ機、宿泊、食事セット）に申し込んだ私は祭りの前日の午後、モングの空港に降り立ち、出迎えるザンビア人のガイドに案内され、バス（ミニバン）に乗り、2泊するクロスロードロッジへ向かいました。街を行き交う人々は、赤いベレー帽を被っています。これがコンボカ祭りのシンボルのようです。

## 完成していない宿

ロッジはどうか最近2号店を出したらしく、我々の宿泊先は2号店でした。宿に到着するとなんだか変な感じです。まだ、受付もなく、キッチン、レストランもない。ポンプの工事をしているようだし、シャワーもお湯が出ません。「本当にオープンしているの？」と聞くと、「大丈夫です」とスタッフは言うので、半信半疑でチェックインしました。

案の定と言うか、キッチンが完成していないため、車で1号店に運ばれ、散々待たされ（約2時間）、車で1号店に運ばれ、散々待たされ（約2時間）

## 王様の船と張りぼての象

サマーパレスの港には王様が乗る船が用意されていました。王様の船は長さ20m位でシマウマ模様の巨大な船でした。中央に王様が入る白い小屋があり、小屋の上には黒いゾウの置物があります。大きさは子象くらいですが、よく見るとビニール袋のようなもので作られ、安っぽい感じでした。

## ガイドよどこへ..

宮殿前（宮殿と言ってもそれほどりっぱではないですが）で王様の登場を待っていると、驚いたことに僕らのガイドは祭りに参加すると言ったことか行ってしまうました。祭りを前に放り出されてしまいました。おいおいどこへ行くんだよ。ここで君が居なくなるなんて聞いてないよ！（もうなるようにしかならないという心境です）。

## いよいよ王様の登場！

王様が出てくるのを待つこと1時間。そのうち、雨も止まりました。雨が止むのを待っていたのでしよう、お付の行列を従えて王様が出てきました。皆に盛大に迎えられた王様は船に乗り込み、漕ぎ手も50名ほどが船の両側に並んで出発しました。漕ぎ手は皆、4m程のパドル（竿？）を持っており、なかなか壮観な眺めでした。

## 君たちは誰？

王様が出発した後、僕らは乗ってきた船に乗ろうとしましたが、すでに満員です。来た時には見なかった客が乗っています。それも皆、かなり太っていて、船の喫水が下がっています。船頭は「いいから乗れ」と言っていますが、喫水は20cmもなく、途中で絶対に沈むと思いました。そのうち、別の船頭が「来たときにいなかったやつは降りろ」

## ザンビア通信

# 「アフリカ洗礼」

いま、私は南部アフリカの内陸国・ザンビア共和国にいます。とびきりおおらかで、はてしなくイージーなこの国で、ディスカバーな日々をおくっています。

間)、やっと夕食を食べました(食べ終えたのは21時過ぎ)。

## ヘルプ・ミー!!

夕食後、2号店に車で戻り、23時くらいに部屋に入りました。お湯の出ないシャワーでも仕様がないかと思ひ、蛇口をひねると水がでません。はっはっは。そう来ましたか。もう、遅くて疲れたので諦めて寝ようかとも思いましたが、結構汗をかいたので汗だけでも流したく、また、工事を続けているスタッフを呼ぼうとドアを開けようと思いました。が、鍵を開け、ノブをひねってもドアが開きません。鍵は開いていますが、空回りしてドアが開きません。「……」。閉じこめられました。窓には泥棒対策の鉄格子です。

仕方なく鉄格子を握り、「おい、ヘルプ、ヘルプ」と叫び、スタッフを呼びました(まるで囚人です)。大工がやってきたので、状況を説明し、ドアノブを分解し、なんとかこじ開けてもらいました。新しいドアノブを持って来るというので、こんな夜中に大丈夫かな？と訝りつつ、「何分戻ってくる？」と聞いたところ「5分くらい」とのこと。「本当か？」と聞くと、「大丈夫！」と答えるので、「分かった、じゃあ待ってる」と言いました(が、もう、期待していません)。

で、水の方もクレームを言い、0時半くらいに水が出るようになりました。しかしシャワーは穴が詰まっついて、3本しか水が出てきません。あんなにがんばったのにたった3本の水かと思ひながら、汗を流し、寝ました。そうそう、大工は新

しいノブをやっぱり持つてきませんでした。

## 知らされないスケジュール

土曜日、朝から雨です。昨晚と同様、朝食は1号店で食べました。それにしてもガイドからのこの日の行動予定を全く聞いておりません。9時から祭りがスタートし、17時頃に終わるらしいという情報しかありません。僕らが祭りの内容を知っていると思っているのか？ ガイドさん。

## ハーバーへ

さて、8時にロッジを出発し、ハーバーという港に向かいました。サマーパレスは湿地の中にある離れ小島のような感じになっていて、船でハーバーからサマーパレスまで移動するようです。ハーバーに着くと、普段、何に使われているか分かりませんが、普通のモーターボートや幅2m長さ10mくらいの木造船(原動機付)がたくさん浮かんでいます。

ガイドは「この船に乗れ」と木造船を指さしました。雨はまだ降っており、ここに来て、雨足も強くなってきました。が、木造船には屋根などなく、傘を忘れた僕はびしょ濡れになるしかありません。しくしく。

## サマーパレスへ行くボロ船

次々と木造船が出発していきますが、原動機にかバーのない物も多く、なかなかエンジンがかからないものの中にもあります。やっとエンジンがかかり、出発したところ直ぐにエンジンが止まり、水の上で立ち往生している船もあります。信じら

と言って、太ったおじさんやおばさんは降りていきました。やれやれです。喫水も30cm以上に回復しました。

## 立ち往生する木造船

ハーバーへ戻る途中、ちょうど中間地点で引き返ってくる木造船に会いました。若い白人女性が真剣に叫んでいます。「カムバック」と言っているようです。この先、行き止まりで教えてくれるのか？と思いましたが、そのあと「エンジンが故障したの」と叫んでいました。そう言えば進みも遅い上に、桶で船から水を掻き出しています。しかし、戻ったついでにこちらの船には乗せるスペースがありません。我々の船頭は無視してハーバーへと進みます。かわいそうに。船(運)が悪かったね。沈まないことを祈ってます。

## 王様の到着

ハーバーに戻り、王様が到着するウインタールパレス近くの港に行き、王様の到着を待ちます。港では1万人以上の群衆が歌ったり踊ったり、はしゃいで王様の到着を待っています。すごいパワーでした。

18時過ぎ、予定を大幅に遅れて王様の船が到着しました。ザンビア人は2時間以上もはしゃぎ続けていましたが、さらに盛り上がり、祭りはクライマックスを迎えました。

## ついに完成した宿

祭りの後、ロッジに戻ると部屋の鍵は直っていて、なんとレストラン、バーもオープンしていました。どうして後一日早く出来ないかなあと思いましたが、ここで食べられると思うとほっとしました。シャワーも水ですが良く出ています。この日は疲れていたのでもぐもぐ寝ることができました。ガイドは戻ってこなかったな：と思ひながら。たった2泊でしたが、アフリカを凝縮して体験することができたと思います(アフリカの洗礼を受けたとも言えますね)。

在ザンビア日本国大使館 二等書記官  
財津 知亨

## Zambia

【ザンビア共和国概要】●国土:日本の約2倍 ●人口:約1千万人  
【ザンベジ川概要】●流路延長:2,740km ●流域面積:133万km<sup>2</sup> アフリカ4番目の川



王様の行進。

ザンビア国営テレビにインタビューされる筆者。



スリル満点な木造船。



張りぼて？象がシンボルの王様の船。ガイドもきつとこの中に

# 北海道開発局

# 近年の風水害について

## ①平成16年度における自然災害発生状況

平成16年度の自然災害による被害は、死者273名、住家被害約35万戸（消防庁調べ）に上り、過去最大となる10個の台風が上陸、例年の約4倍（年間上陸台風2.6）という災害の年でした。

台風による洪水被害の一例を紹介します。

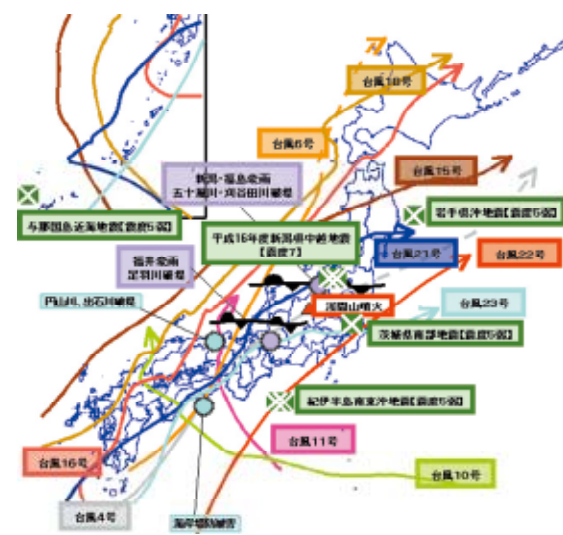
平成16年度のおもな災害

日	災害	死者・行方不明者(人)	住家被害(戸)
6/11	台風4号	—	—
7/18~22	台風6号(静岡県、徳島県)	5	194
7/12~13	新潟・福島豪雨(新潟県、福島県)	16	13,875
7/17~18	福井豪雨(福井県、山形県等)	5	14,156
7/29	台風10号(徳島県、高知県等)	—	—
8/2	岩手県沖地震(岩手県等)	3	2,730
8/5	台風11号(三重県等)	—	—
8/10	岩手県沖地震(岩手県等)	—	—
8/17~20	台風15号(愛媛県、香川県等)	10	3,286
8/27~31	台風16号(熊本県、宮崎県、鹿児島県、徳島県、香川県、愛媛県、広島県、岡山県等)	17	53,727
9/11	浅間山火山噴火	—	—
9/15	紀伊半島南西沖地震(三重県等)	45	51,500
9/14~8	台風18号(北海道、兵庫県、広島県、岡山県、香川県等)	—	—
9/25~30	台風21号(三重県、愛媛県、岡山県、兵庫県等)	27	21,969
10/16	茨城県南部地震	—	—
10/17~9	台風22号(東京都、千葉県等)	8	9,745
10/15	与那国島近海地震(沖縄県)	—	—
10/18~21	台風23号(兵庫県、京都府、高知県、岡山県、香川県、徳島県、長野県等)	96	71,087
10/23	平成16年(2004年)新潟県中越地震	40	106,598
合計		273	348,867

※消防庁調べ 平成17年1月12日15:30現在

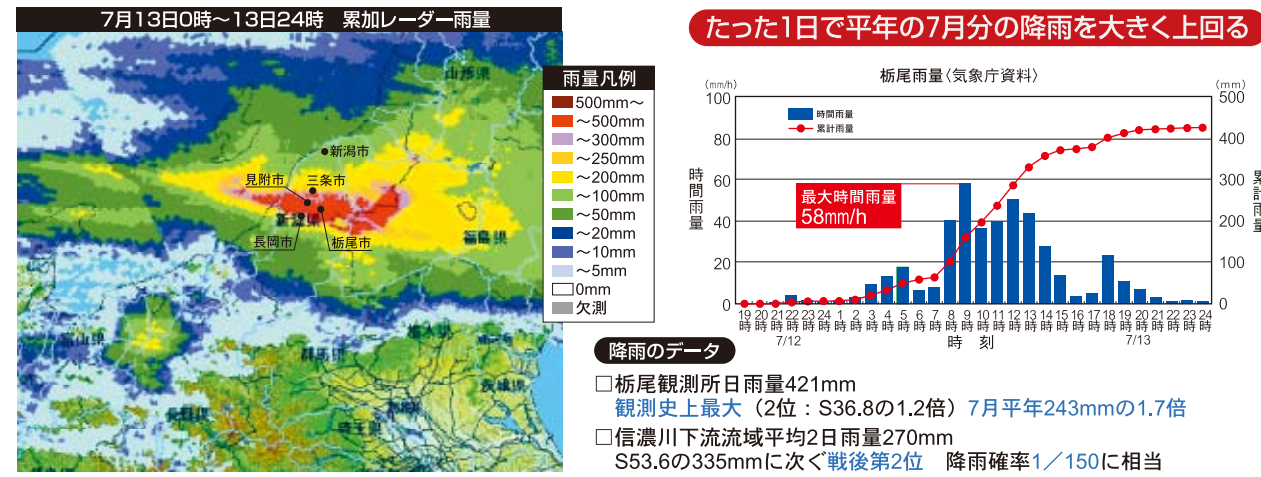
## 平成16年度 自然災害発生状況

過去最大の10個の台風が日本に上陸(例年の4倍)し、各地で浸水被害が発生



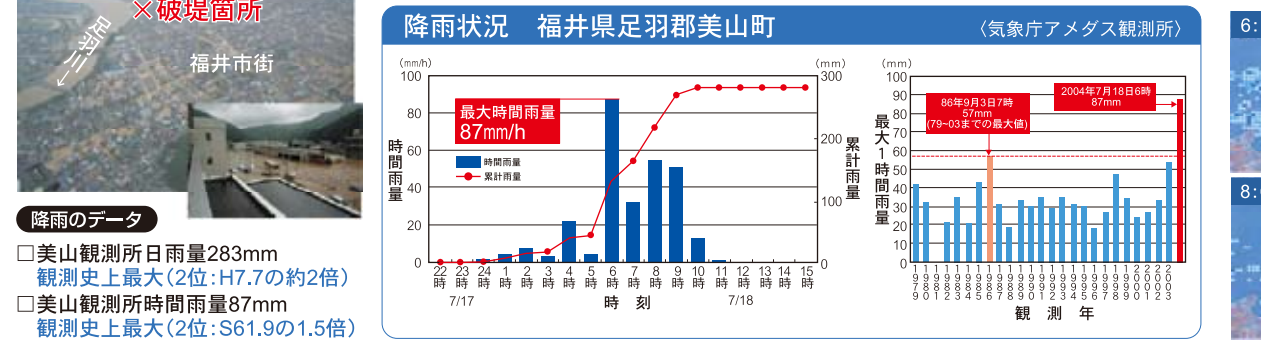
## 平成16年7月新潟・福島豪雨による大水害【五十嵐川・刈谷田川等(新潟県)】

7月12日深夜から13日にかけて、梅雨前線の停滞により総雨量431mm(栃尾観測所)の記録的な集中豪雨となり、五十嵐川、刈谷田川等新潟県内の補助河川6河川の堤防が11箇所破堤し、死者16名浸水家屋約8,400戸の大惨事となった。



## 平成16年7月福井豪雨による大水害【足羽川(福井県)】

7月18日明け方から昼前にかけて梅雨前線が活性化、総雨量285mm(美山観測所)の記録的な集中豪雨で福井市街を貫流する足羽川の左岸堤防が破堤、左岸2箇所越水、4,067戸の浸水被害となった。



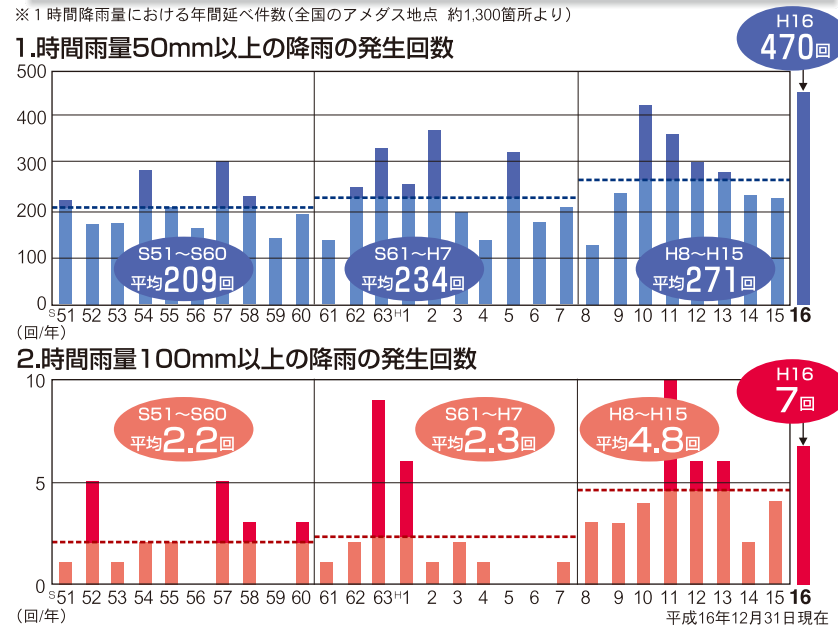
## ②近年の降雨の特徴

近年の特徴は、短期集中型の降雨の発生頻度が多い点です。たとえば、1時間に50mmの降雨の発生状況は、昭和51年から昭和60年までは平均209回ですが、その後昭和61年から平成7年は234回、平成8年から平成15年までは271回と増え続け、平成16年は、すでに470回発生しています。

1時間に50mmの降雨規模の目安として、1時間に50mm以上80mm未満の降水量は、「非常に激しい雨」と表現され、「水飛沫」あたりが一面白っぽくなる状態」といわれます。

また、それ以上の降雨規模となる1時間に100mm以上の降雨の発生状況も、近年増加傾向にあり、平成16年はすでに7回発生しています。

## 集中豪雨の頻発



## ③豪雨災害対策緊急アクションプログラム

平成16年の洪水被害の発生状況、および近年の降雨傾向を踏まえ、国土交通省として、これまでの災害対策を抜本的に改善していくことを目的に、平成16年11月11日に社会資本整備審議会河川分科会に豪雨災害対策総合政策委員会を設け、改善すべき内容を審議いただきました。

今春を機に全体の提言がまとめられる予定ですが、緊急に対応すべき事項については12月2日に「総合的な豪雨災害対策」についての緊急提言」としてまとめられました。

この緊急提言を受け、国土交通省は各種施策について時限や数値目標を設けて、緊急的かつ強力に具体化を図り、関係機関と密接な連携を図りつつ、速やかに制度創設の予算要求や法的措置の検討をはじめとする必要な措置を講ずるものとしています。

なお、同委員会が来春以降引き続き審議を進められ、全体を通じた提言がまとめられ次第、それらについても具体化を図っていくこととしていきます。

## 総合的な豪雨災害対策についての緊急提言および豪雨災害対策緊急アクションプランの概要

1.今年の災害の特徴と新たな課題 今年の水害、土砂災害、高潮災害等から、自然的状況、社会的状況の変化による新たな災害対策の課題が明らかになった。

1.自然的状況

- ①局所的な集中豪雨が多発
  - ・流域が比較的小さい中小河川での洪水や土砂災害の増大
  - ・洪水予測等があまり行われていなかった中小流域での情報提供の充実をはじめ迅速な警戒避難体制が必要
- ②これまでの記録を超える降雨量、高潮の波高・波力などが各地で発生
  - ・自然の外力は施設能力を超える可能性が常に存在することをふまえた備えが必要
- ③破堤が多数発生。多くの人命、財産を失うだけでなく、後片づけなど事後対応も大変
  - ・破堤のように災害現象が急激に拡大することがないような対策が必要
  - ・災害現象の急激な変化を念頭においた避難警戒体制が必要

2.社会的状況

- ①高齢者や保育児などの災害弱者の被災が特徴的
  - ・少子高齢化に対応した警戒避難体制の確立が必要
- ②旧来型の地域コミュニティの衰退、水防団員の減少と高齢化など地域の共助体制が弱体化
  - ・近年の社会的状況踏まえた共助体制の再構築が必要
- ③避難勧告の発令や伝達の遅れや、伝達されても避難しない人が多数
  - ・住民や自治体等の災害経験が減少し、危機意識も低下している中でも、災害時に的確な認識や行動がなされるような仕組みが必要
- ④地下鉄、地下街など地下空間利用が増加している中で地下空間が多数浸水
  - ・都市の地下空間の浸水に対する防御と的確な避難誘導体制の構築が必要

2.今後の対策の基本的方向

今年の災害から明らかになった新たな課題に的確に対応しつつ、今後の投資余力に限られる中で、できるだけ早期に安全度を高め、被害を最小化することが基本的命題

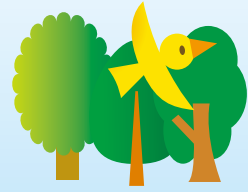
- 災害時に、よき的確に住民が避難等の行動をでき、自治体が防災活動を行えるよう、地域別のわかりやすい予測情報や氾濫情報など、的確な避難に役立ち、被害軽減に必要な情報を充実する。(送り手情報から受け手情報へ)
- 災害経験があまりない住民や自治体等も、災害発生時に的確に行動できるよう、各地域で発生する可能性のある災害についての情報(災害環境情報)及び災害時におけるべき行動についての情報(災害行動情報)が平時時から共有される社会への転換を図る。
- 地域の災害対応力の脆弱化や都市構造の変化等を踏まえ、防災施設の整備用途等において、施設能力を超える自然の外力が発生し施設が破壊した場合にも、壊滅的な被害とならないよう、施設的设计・運用の高度化や万が一の場合の危機管理体制を構築する。
- 近年増加傾向にある集中豪雨等の発生や計画を超える自然の外力の多発を踏まえ、土地利用状況によって異なる安全度の設定や操作ルールの変更による既存施設の有効活用など、従前の計画論にこだわらず多様な整備手法を展開する。
- 少子高齢化、旧来型の地域コミュニティの衰退、都市構造の変化などの社会的状況の変化も踏まえて、多様な主体の参加による水防体制、平時時から地域の住民が参加する様々な防災活動、広域的な支援体制などの展開により、自助、共助、公助のバランスのとれた地域の防災力の再構築を支援する。

1.ソフト対策とハード整備が一体となった減災体制の確立  
2.治水安全度の早期向上のための多様な整備手法の導入、既存施設の有効活用、管理の高度化

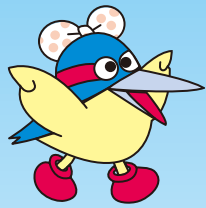


# 北海道開発局 石狩川開発建設部

# 調査船「弁天丸」による 体験学習報告



アオサギが飛んでいるよ。  
あんな大きな鳥だね！



陸上学習



先生、何か飛んでいるよ。



風が気持ちいいね。  
茨戸川には、たくさんの鳥や魚が  
いるんだって。へえ～。



はい、弁天丸に乗ります。  
準備はいいですか？



さあ、いよいよ  
弁天丸に乗るよ！  
船上学習



今日は楽しみにしていた弁天丸の日。  
何を発見できるかな？



今日は附属札幌小学校の  
みんなと体験学習だよ！



トクサは鉛筆削りになるから持って帰ろうかな。  
笹舟つくるから笹の葉もってあこうかな。



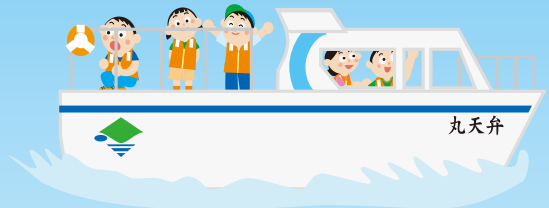
この植物は、どれかな？  
マコモは川の中に生えてるんだね。



皆で笹舟レース。  
誰のいちばん早いかな？



笹舟づくりは、  
楽しいね！



**今年もみなさんの参加をお待ちしています**

わたしたちも、もっともっと勉強して、体験学習をより充実したものにしていきたいので、みなさんもぜひ参加してください。

\*詳しくはホームページ  
<http://www.is.hkd.mlit.go.jp/14manabu/06benten/index.html>  
※4月1日(金)以降、ご覧いただけます。

もしくは、下記までお問い合わせください。  
[連絡先]  
北海道開発局 石狩川開発建設部  
地域振興対策室 地域調整係 崇田(おねた)  
〒060-8541  
札幌市中央区北2条西19丁目  
TEL: 011-621-1541 (内3474)  
FAX: 011-621-6090



楽しかったね。まだ行きたいね。

みんなで記念写真！

平成16年度の参加校および実施日

実施日	参加校	学年	参加人数
9月 6日(月曜日)	石狩市立石狩小学校	5,6年生	32人
9月 7日(火曜日)	北海道教育大学附属札幌小学校	4年生	40人
9月10日(金曜日)	石狩市立石狩小学校	PTA	13人
9月15日(水曜日)	北海道教育大学附属札幌小学校	4年生	41人
9月21日(火曜日)	札幌市立茨戸小学校	6年生	28人



どうだ！僕の笹舟。  
じょうずで上手に出来たね！

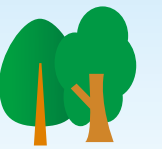
北海道開発局石狩川開発建設部では、茨戸川流域の小学校を対象として、調査船「弁天丸」に乗船する体験学習を平成16年度より行っています。平成16年度は石狩市立石狩小学校5・6年生およびPTA、北海道教育大学附属札幌小学校4年生、札幌市立茨戸小学校6年生のみなさんが参加しました(表1)を見てください。

学習に先立ち、わたしたちは参加したみなさんに、「川の中から見てみたら、川はどんな風に見えるだろう?」という問いかけをしました。

この学習では、川の中からと外からの両面から観察しました。川の中から

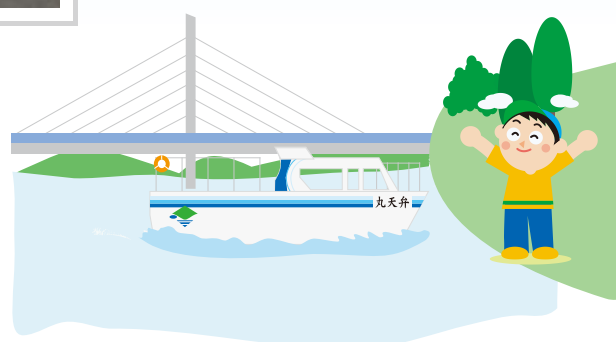
参加したみなさんからは、わたしたちの最初の問いかけに対して、「川の鳥、定置網、川の水路など知らないものばかり」、「運河水門や河口橋の下などをくぐったのは初めて」、「陸上で見るより茨戸川や石狩川はとっても大きかった」などの感想があり、直接川に接することで自然に対して新たな発見をし、驚きを感じてくれました。

今回は、体験学習に参加してくれたみなさんの中から、代表して北海道教育大学附属札幌小学校4年生の体験学習を紹介いたします(参加してくれました全員の体験記は、石狩川開発建設部のホームページに載せてありますので、ぜひご覧ください)。



は、茨戸川の自然や石狩川のような弁天丸に乗船して観察しました。川の外からは、川岸に生えている植物に直接触れ、植物観察や笹舟づくりなどを体験しました。

参加したみなさんからは、わたしたちの最初の問いかけに対して、「川の鳥、定置網、川の水路など知らないものばかり」、「運河水門や河口橋の下などをくぐったのは初めて」、「陸上で見るより茨戸川や石狩川はとっても大きかった」などの感想があり、直接川に接することで自然に対して新たな発見をし、驚きを感じてくれました。



# 北海道



自然河道に近くなるよう蛇行させた低々水路。植生が回復。



**早苗別川にホタル復活！**  
苗別川は、江別市の南、野幌原始林にその源を発し、東2号川筋遣川の支川を合わせて千歳川に注ぐ流域面積15.3km<sup>2</sup>、流路延長11.0kmの河川です。

この辺一帯は石狩川や千歳川、夕張川が合流する低湿地帯で、多少の豪雨でも氾濫し、田畑等の浸水被害が後を絶たず、また本川の近くまで都市化が進んできたことから、水害に強いまちづくりの一環として、昭和49年から平成9年まで河川改修工事が行われました。

世の中に多自然型川づくりが登場し、

「江別ホタルの会」による幼虫の放流活動、清掃活動などにより徐々にイケボタルは増え続け、昨年9月に本格的な復活を遂げることができ、関係者の長年の思いが実りました。

多自然型川づくりが始まって15余年、今後も試行錯誤を繰り返しながら、より良い環境を確保していきたいと考えています。



「江別ホタルの会」によるホタル幼虫の放流。

て間もない昭和63年に、市民有志等による「江別ホタルの会」からイケボタルの保全について強い要望を受け、北海道札幌土木現業所では道央自動車道より上流に生息する、イケボタルの保全対策を治水対策と併せて検討することとしました。

採用した工法は木柵護岸工と呼ばれるもので、ホタルやその餌となるカワニナの生息環境を整えるために、木杭によって低水路を複数面にし、河床には砂利を敷き、幼虫がふ化する川岸には植生を施しました。これは、幼虫が川から上陸した後、土の中でサナギになるための工夫です。

# ホタル舞い、サケ帰る川の再生

**勝納川にサケ遡上**  
住民感激！  
勝納川は小樽市街地を流下し、小樽港第2期運河に注ぐ、流路延長10.5kmの小河川です。

中下流には、工場や住宅地の他「北の釐酒造」「南小樽市場」などの観光名所があり、大勢の人々が訪れています。上流には小樽の水瓶・奥沢水源池（大正3年）があり、自然のたたずまいを残しています。

昭和30年代の災害復旧工事や高度成長期における産業活動等による排水の影響で、川は浅く単調で汚れも進み、魚とは無縁な川となりました。その後、地域住民による毎年の清掃活動や周辺企業の排水改善、北海道小樽土木現業所が「勝納川の再生」に取り組んできた結果、魚道整備の効果もあって、昨年9月にサケが続々と戻ってきました。

川岸や橋にサケの姿を眺める観光客や古くから勝納川を知る住民の方々や子供達の姿があり、整備が進んだ散策路で観察したり、昔の川面に思いを馳せていました。



**小樽市**  
改修前

改修後

第3号落差工(H13施工 奥沢中央橋付近)。

**小樽市**  
改修前

改修後

第3号落差工(H13施工 奥沢中央橋付近)。

# 北海道開発局 旭川開発建設部



ラブリバー永山新川で川下り。

**「ながやま子どもの水辺協議会」**は、永山新川に子供達のための安全で豊かな水辺をつくらんと、平成16年10月に発足、3月に正式な協議会として「子どもの水辺サポートセンター」に登録しました。

「子どもの水辺サポートセンター」は、文部科学省・国土交通省・環境省が連携し、農林水産省がサポートして進める「子どもの水辺」再発見プロジェクトの一環です。

河川を活用した自然体験活動は全国で行われていますが、教育現場での安全面に対する不安もあります。協議会では、こういった問題に正面から取り組むため、3回の協議の中で教育現場の生の声を聞き、どのように活動を進めていくかをしっかりと議論。

すべての意見を集約した活動計画書をまとめてから登録するという、新しいアプローチを取りました。



委員から登録申請書を旭川開発建設部に引き渡し。

**「ながやま子どもの水辺協議会」**は、永山新川に子供達のための安全で豊かな水辺をつくらんと、平成16年10月に発足、3月に正式な協議会として「子どもの水辺サポートセンター」に登録しました。

「子どもの水辺サポートセンター」は、文部科学省・国土交通省・環境省が連携し、農林水産省がサポートして進める「子どもの水辺」再発見プロジェクトの一環です。

河川を活用した自然体験活動は全国で行われていますが、教育現場での安全面に対する不安もあります。協議会では、こういった問題に正面から取り組むため、3回の協議の中で教育現場の生の声を聞き、どのように活動を進めていくかをしっかりと議論。

すべての意見を集約した活動計画書をまとめてから登録するという、新しいアプローチを取りました。

**永山モデルを全国に発信**  
3回の協議では、「安全なスペースをどれだけ確保できるか」、「家族全員が楽しめる環境にできないか」といった意見が出され、子供だけでなく親も安全に楽しめる環境づくりを目指すことを確認しました。協議の内容は随時「子どもの水辺」プレスにまとめ、川のふるさと交流館・さららなどで配布しています。この取り組みを広く発信して、他地域との交流を広げていくことも目標のひとつです。

この春、第一歩として大人達が永山新川に入ります。まず大人が体験することで意識が変わり、生きた情報を子供に教え、大人も楽しめる水辺づくりにつながるからです。こういった活動をひとつずつ積み重ね、自然体験活動のお手本になるような新しい水辺づくりのあり方を、地域のみならずと進めていきます。

「ながやま子どもの水辺」がいよいよ動き始めます  
「ながやま子どもの水辺協議会」の登録

考え方や取り組みを掲載したプレス。

**ながやま子どもの水辺協議会**  
【活動拠点】  
◎川のふるさと交流館・さらら  
旭川市永山町13丁目  
TEL.0166-49-5337

**活動理念**  
地域の人々の手で子どもの水辺をつくり、そこでの楽しみ方・学び方の幅を広げていくとともに、環境教育・マナー教育とともに世代間の交流を深めるなど、地域の大人たちが幅広くバックアップしながら、子どもが生き生きと遊び、学べる水辺空間づくりをめざします。さらに、新しい水辺づくりのあり方を、石狩川上流域から広く発信していきます。

**5つの基本方針**  
1. 住民参加型でめざす「都会の中の自然づくり」  
2. 自然体験活動の支援  
3. 事故防止および安全管理への取り組み  
4. 川を守り、清流をつくるための取り組み  
5. 地域間交流の推進と川のネットワークづくり

**川の世界をアースしよう！**

川の世界が空間全体に広がる。

石狩川治水学習館・川のおもしろ館3階の「パノラマゾーン」が、2月5日(土)リニューアルオープンしました。映像が鏡に反射する幻想的な空間はオープン15周年のリニューアルの一環で、大型スクリーンに映し出される源流の流れや暴れる水など、万華鏡のように迫りくる川の世界を移動していると、水中を漂う感覚に。またひとつ、楽しく学ぶアトラクションが誕生しました。

◎川のおもしろ館  
旭川市常盤公園内 TEL.0166-24-8430

小さな子供に遊びを教えるガキ大将も育てたい(イカダで遊ぶ子ども達)。

# 旭川市

**中央地区流雪溝**  
別川の河川水を利用した流雪溝を含む中心市街地を東西につなぐ1条通から5条通の各通りの両側に函型水路(幅0・6m×高さ0・8m)として埋設されています。

国、北海道、市の三者が連携を図り、平成2年度工事に着手、平成13年度に全長23km余の流雪溝が完成しました。地域が設置する「管理運営協議会」により、投雪ルールを定めるなど自主的に運営され、行政との協働により、冬の快適な道路環境を創り出しています。

**基北川消流雪河川**  
冬の間、水量が減少する基北川に、水量が豊富な忠別川から消流雪に使用する河川水を導水して、住宅地



大雪像と花火が競演する冬の石狩川河川敷。(旭川冬まつり)

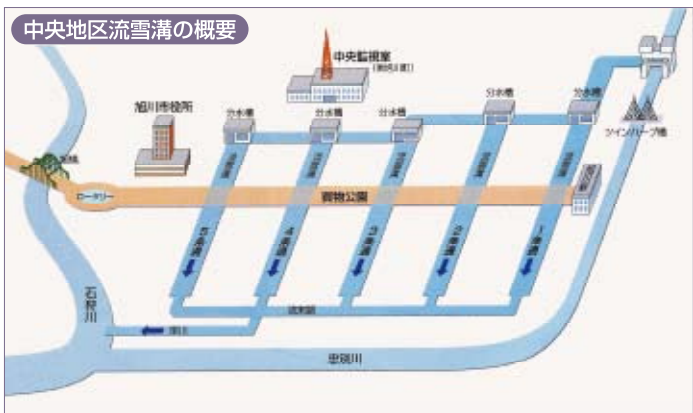
## 冬も活き活き、川のまち



雪を直接川に投げ込むので、家も道路もスッキリ。(基北川)

旭川市は、36万人の人口を有する北海道第2の都市である一方、「大雪山連峰」の山々を水源とする石狩川水系の石狩川をはじめ、忠別川、美瑛川、牛朱別川の4つの大きな河川と、大小130余の川が流れる「川のまち」が象徴するように、豊かな自然環境にも恵まれています。

じつはその川、厳しい旭川の冬にも河畔林の樹氷やダイヤモンドダスト等の幻想的な風景を魅せてくれるだけでなく、冬の難敵・雪対策にも一役買ってくれています。



域等を貫流している河川沿線の住民による道路や宅地内の雪処理が可能となるようにしました。

国による導水路事業の後、平成14年度から約5・1kmの区間で供用が開始され、地域の協力により円滑な利用がなされ、周辺の冬期生活環境の向上が図られています。

石狩川の河川敷では、毎年2月「旭川冬まつり」が開催され、世界最大級の大雪像をはじめ、雪を活かした各種イベントで子供達や市民の歓声があがっています。

川は冬も活き活きとしています。

# 札幌市

**市民の力を生かす**  
川環境モニター制度は、河川愛護活動の活性化や市民の観点による河川環境情報の収集と、監視体制の強化を目的に平成5年から行い、本年度で13年目を迎えます。

モニターは、河川環境や管理施設を監視し、気づいたことや意見・要望等を毎月報告。早急に対処が必要な時は電話連絡します。札幌市はモニターの声を受けていち早く現地を確認し、状況に即した処理をします。

また、モニターからの意見や要望は、河川整備や河川計画の参考にしています。



モニター委嘱式

## 協働としての取り組み

### モニターの観察記録から

※一部抜粋



篠路川10月分「右岸のサクラの幼木が、130cm位のところで折れている」



拓北川6月分「野生のスイレンであるエゾノヒツジグサの開花、白くてとても可憐」



手稲土功川11月分「防護パイプが破損している。他の地点のパイプ外れは直っていた」



安春川8月分「全般的に水量、水質が良くなった。管理者と町内会の川底清掃が功を奏した」

### 札幌市河川環境モニター制度

- ◎委嘱河川  
札幌市が維持管理する河川の中から札幌市が指定(平成16年度22河川)
- ◎委嘱対象者  
指定河川のある連合町内会/単位町内会の会長、もしくは会長が推薦した人/企業、学校等河川愛護に関心のある人(平成16年度27名)
- ◎委嘱期間  
\*5月中旬から11月中旬までの6カ月
- ◎札幌市河川環境モニターだより  
平成15年度から年7回、現在までに計14回発行。催しなどの最新情報や川に関する豆知識、モニター報告について札幌市の対応や河川の維持管理の考え方を掲載。
- ◎定時報告  
\*月1回報告書提出
- ◎随時報告—緊急時は電話連絡

### モニター活動内容

1. 日常生活や河川愛護活動により知り得た河川情報の報告  
\*増水や油・汚水の混入など水質や水量の監視/動植物等の発見、確認、観察/ゴミ等の不法投棄の監視/転落防止柵や護岸等管理施設の監視/草刈、清掃等の実施状況/河川に關係する調査研究等の活動/その他河川に関する意見や要望
2. 札幌市主催の河川愛護関係の行事、札幌市が推薦する河川シンポジウム等に支障のない限り参加



情報の共有と交流を担う「札幌市河川環境モニターだより」

**札幌市は平成14年に「協働都市」を宣言し、市民と行政が役割を分担した事業推進を目指しています。**

今まで河川管理者が行っていた河川巡視も、川の近くに住む人が暮らしの中で川を見つめることで、細部まで行き届いた、その地域ならではの河川管理が実現すると考えます。事実、モニターの方々から寄せられた情報は大変貴重なものばかりです。

この制度は、札幌市が目指す協働による事業のひとつと考え、今後の河川管理のあり方にもつながるものです。

平成17年度は、対象河川を2つ増やし、24河川でモニターを呼びかける予定です。

川と人 カレンダー

春  
SPRING

MAR 3 3月19日～5月5日	おもなサケ稚魚放流会 (参加可能)	千歳市千歳川サーモンパーク	千歳サケのふるさと館	☎0123-42-3001
APR 4 4月中旬頃		旭川市石狩川秋月橋右岸広場	大雪と石狩の自然を守る会	☎0166-55-0375
4月中旬頃		恵庭市漁川河川敷	えにわ市民サケの会	☎0123-34-1111
4月15日		岩見沢市幾春別川西大橋左岸	幾春別川を良くする市民の会	☎0126-23-4111
MAY 5 5月4日・5日		札幌市真駒内川河川敷	札幌市豊平川さけ科学館	☎011-582-7555
5月1日～8月	石狩川クリーンアップ作戦	石狩川流域市町村	(財)石狩川振興財団	☎011-242-2242

夏  
SUMMER

JUN 6 6月～8月	石狩川リバーセーリング H17石狩川水防公開演習 幾春別川カップ・イン・三笠	江別市石狩川新石狩大橋付近 当別町当別川当別太地先 三笠市幾春別川	江別ヨットクラブ 当別町 三笠市商工観光課	☎011-386-4847 ☎0133-23-2330 ☎01267-2-3997
JUL 7 7月上旬	石狩川フェスティバル 石狩川下覧権川下り 北海イカダ下りin空知川 森と湖に親しむ旬間	旭川市北旭川大橋右岸 深川市～砂川市～月形町 空知川布部大橋～富良野大橋 石狩川流域市町村内の各ダムの見学、体験行事	旭川北商工会 同事務局 富良野市商工観光課	☎0166-57-2410 ☎0125-65-2341 ☎0167-39-2312
7月下旬	ラブリバー砂川夏まつり	砂川オアシスパーク	砂川市商工労働観光課	☎0125-54-2121
7月下旬	南幌リバーサイドフェスティバル	南幌町リバーサイド公園	南幌町企画振興課	☎011-378-2121
7月31日	サマースカイスportsフェスタ	たきかわスカイパーク	(社)滝川スカイスports振興協会	☎0125-24-3255
AUG 8 8月下旬頃	川の調べコンサート	滝川市川の科学館前庭	川の科学館	☎0125-24-0989

SEP 9 9月上旬頃	川の施設見学会	旭川市永山新川など	川のおもしろ館	☎0166-24-8430
9月中旬	インディアン水車まつり	千歳市インディアン水車公園	同実行委員会	☎0123-23-4630
9月中旬	北海道遺産石狩川歴史文化伝承事業	石狩市弁天歴史通り	同実行委員会	☎0133-72-3167

※掲載情報は平成17年2月末のもので、変更になる場合もあります。

石狩川振興財団の活動報告



雨竜川捷水路の西橋下流を活用。

水と緑とのふれあいを深めて  
地域に根づく  
森づくり

■地域協働の試みとして  
平成8年から始まった「石狩川流域一人一本300万本植樹運動」。

最近の植樹会は、各地域の住民団体と市町村が協力して進める例が増えています。妹背牛町で行われた植樹会は、空知地域の振興に取り組む有志の方々の働きかけで、平成14年度に完成した雨竜川捷水路で行われました。

また、奈井江町は地域のNPO団体からの打診により、町内の使われていない空間を利用して新たな試みです。



滝里ダムの最上流の富良野市金満地区。

平成16年石狩川流域  
300万本植樹報告

9月  
25日(土) 空知川富良野大橋(富良野市)  
26日(日) 忠別川東神楽橋(旭川市)

10月  
2日(土) 雨竜川茜橋(妹背牛町)  
10日(日) 千歳川南9号排水機場(長沼町)  
23日(土) 夕張川多良津橋(由仁町)  
24日(日) 三重湖公園(南幌町)  
30日(土) 奈井江町サンパーク

■育てて見守る森づくり  
植樹法の生態学的混播・混植法は、地域にもともとあった森を再生するもので、近くの雑木林などから種を集め、苗まで育てて対象地に植えます。

植樹会を一過性のものにしたために、これまで各地で「緑の里親」を育成し、今では苗づくりに取り組む住民団体も増えました。

苗づくりから維持・管理まで地域協働で行う森づくりを目指して、これからも緑を育む心の環を広げます。



1番人気はモーターボート。スピードと爽快感を満喫。

夏休みの体験と交流の場  
森と湖に親しむ  
つどいin滝里

平成16年7月28日(水)

石狩川の支川・空知川中流の滝里ダムで、4回目となる「森と湖に親しむつどいin滝里」が、芦別市と富良野市の小学生46人参加のもと行われました。

前回参加し、楽しみに待っていた子もいて、趣向を凝らした盛り沢山のメニューが人気の秘密です。

子供達は普段入ることができないゲート室や監視廊などを見学。監視コンピュータなどに興味深く見入っていました。



興奮しきりだったのは流木アートのカヌー、モーターボートでのパトロールです。周辺の動物をテーマにしたクイズも大盛況でした。

たくさん体験を通して、ダムと自分達の暮らしの結びつきや水の大切さを学び、探求心や冒険心を刺激する夏休みの雄大な学び遊び場として、定着しつつある滝里ダムでした。



ダム施設を見学、ダムの役割を学んだ。



6月18日に当別町で水防訓練が行われます。昨年の災害を教訓に、ぜひご参加を。

編集後記

今冬の降雪量は例年の5割増、年間降雪量も相当オーバーのよう。雪かきのしすぎで腰を痛め、通院する人も少なくなかった。まさに雪との戦い。

本号は、第2回北海道遺産選定で選ばれた「二天塩川」を特集しました。北海道の宝物(52件)となったたつの大川。流路延長は石狩川268km、天塩川256kmで北海道1位と2位(全国でも3位と4位)。それぞれの取り組みを知り、協力し合えば、北海道の川づくりはますます元気に。

「宮島沼に春を上げるマガンの飛来」ガンの1種・マガンは毎年10月頃シベリアから4,000kmの長旅で日本にやってきます。

北海道の宮島沼や周辺を中継地に、宮城県伊豆沼・内沼で一冬過ごす。春になると宮島沼を中継して、シベリアへ帰って行く。

野鳥のいる風景を楽しむ人が多い反面、渡り鳥に若芽を食され困っている人もいます。北海道には、旧川の名残をとどめる三日月湖が多数残され、貴重な財産として保存・活用すべきという提言もあります。

人と自然との共生とは、現実問題をどう乗り越えるかですね。